

【出題意図】

課題文は新聞記事または WEB 記事のコラムからの引用で、いずれもジェンダーに関するステレオタイプについて述べている。身近な生活にどのようなステレオタイプがあるのか、それによって自分はどのような影響を受け、もしくは相手にどのような影響を与えているのかを意識してもらうことを狙いとする。

問 1 は文章の読み取りである。2 つの課題文にある「ステレオタイプが及ぼす人への影響」を抜き出す。課題文 1 では、「能力の発揮を妨げる『ステレオタイプ脅威』と呼ばれる現象」の事例が紹介され、「大人の一言が、～子どもの道を狭めていないか」と述べられている。課題文 2 では、ステレオタイプの事例の紹介の後、「ステレオタイプは、自分の可能性を狭めてしまうこともある」と述べられている。2 つの課題文から、「能力の発揮を妨げる」「可能性を狭める」の 2 点を抜き出して解答する。

問 2 は受験者自身の意見を求めている。また、日常生活における観察力および、自分自身の考えを論理的に伝える力を見る。「2 つの課題文を踏まえながら」としているので、問 1 の答えを軸に、対比や発展して自分の考えを述べられているとよい。話の展開はどのようなものでも構わない。「必ず 1 つは課題文と異なる例を挙げること」としているので課題文以外の例示が必要。

【採点基準】

採点基準：思考力・判断力・表現力を中心として総合的に評価します。

(採点基準の一般的内容)

- ・ 理路のとった文章となっているか。
- ・ 文字数は要求範囲内か。
- ・ 誤字脱字はないか。

【 解 答 例 】

問 1

ステレオタイプには人の能力の発揮を妨げる影響や、人の将来の可能性を狭めてしまう影響がある。

(45 字、 25 字 × 2 行 の う ち 25 字 × 2 行)

問 2

日常におけるステレオタイプには、「男らしさ／女らしさ」や男女の職業などがあると思う。例えば電車の運転手やバスの運転手が女性だと意外な印象を受ける。ステレオタイプで問題になるのは、異なるものにマイナスのイメージを抱きがちになること、新しい可能性を事前に潰してしまうことだと思う。

課題文では「ステレオタイプ脅威」が紹介されている。決まった固定観念によって、実際の能力の発揮も妨げるのだとしたら、悪い影響が大きすぎる。私が日常で意外に感じた女性運転手も、「女性の運転で大丈夫か？」と感じればマイナスイメージだが、非常に安定した安全・快適な走りであれば、何の問題もない。人や仕事は内容で判断すべきであって、先入観で判断してはいけない。

課題文ではさらに、ステレオタイプが強いほど異なる可能性を狭めると書かれている。女性の外科医が少ないことで男性の仕事というイメージがつき、外科医になりたいと思う女の子が減るのだとしたら、固定観念の悪循環である。その職業に合う、合わないは個人が判断するものであって、周囲が先に判断すべきではないと思う。私は将来建築士になりたいと考えているが、それは男性の仕事だから事務職にしろと周囲の大人に言われたら、「なぜ？」と思うだろう。少なくとも、可能性については事前に潰さないでほしい。

私が考えるステレオタイプの一番の悪い点は、周囲の固定観念によって人の可能性を狭めてしまうことだ。この考えは無くしていく必要がある。職業などの合う、合わないはやってみなければ分からないし、一般論を基に他人が押し付けるものではないと考えるからである。

(677 字、 25 字 × 24 ～ 28 行 の う ち 25 字 × 28 行)

出題意図

【出題全般】

食品ロスは、近年重要視されている SDGs ともつながる世界的かつ社会的問題のひとつである。本課題文では、食品ロスの現状報告であり、その削減に向けた意識を喚起させるものである。自身で取り組める方法を論述することにより、食に関心をもつ受験生の「知識・技能」、「思考力・表現力」を問う。(選抜方法と学力の 3 要素より)

問 1.

提示された課題文の中から必要とされる情報を読み取り、かつグラフを完成させるための計算を行うことで、読解力と知識を評価する。(知識, 読解力)

問 2.

提示された課題文について、自分が取り組める対策が述べられているか、自分の考えを示す技能および思考力を評価する。さらに、誤字、脱字等に留意し、丁寧にわかりやすく伝えられる表現力を評価する。(知識・技能, 思考力・表現力)

採点基準

【採点基準】

問 1.

各設問につき

- ①正しい計算ができているか。
- ②単位をつけているか。

問 2.

- ①食品ロス削減の対策が具体的かつ実現可能な方法として述べられているか。
- ②自分の考えが明確に表現されているか。
- ③字数制限を守り、かつ 9 割以上書けているか。
- ④誤字脱字がないか。

問 1 .

① 105 万 ト ン

② 43 %

③ 14 %

※ ①、② は 順 不 同

問 2 . 5 7 4 字

食品ロスの増大は食べ物が無駄になるだけでなく、経済や環境に対しても様々な影響や問題が発生する。食品ロスを減らすために私ができることは何であろうか。家庭での食品ロスの原因は「食べ残し」「食品が傷んでいた」「期限切れであった」が挙げられている。そこでこれらを解決するための方法を考えた。一つ目は、食材の買い出しをする前に冷蔵庫の中身や、食品の在庫を確認し、メモを作っておくことである。これにより、無駄なものを買ってしまいうことを防ぐことができ、食材を腐らせてしまったり、期限切れによる廃棄を減らすことができる。また商品を購入する際は、実際に使用するタイミングなどを考えながら、食品の期限表示を確認して購入するようになりたい。私は買い物のとき期限がより長いものを選んで購入していたが、すぐに食べるのであれば、期限が短いものを選ぶことで、お店側の食品ロスの削減にもつながるだろう。二つ目は、調理する時の対策である。食べ残しによるロスを減らすには作りすぎないことがポイントだと思う。必要な分を作って食べきることが食品ロス削減につながると思う。もし作り置きする時は、すぐ食べない分は冷凍するのもよいと考える。

食品ロスの削減は、SDGsの目標のひとつでもある。私自身も自分ができることから実践して、無駄なく食品を使い切ることができるように工夫していきたいと思う。